

塀のなかと外は つながるのか？

女子刑務所モデル事業を振り返る

<ハイブリッド開催> 現地参加とオンライン参加が選べます

日時：2025年2月8日(土) 13:30~16:30 (受付13:00)

会場：成城大学 8号館 008教室 (東京都世田谷区成城6-1-20)

定員：150名(会場参加) オンライン参加は定員 200名
イベント終了後にアーカイブ配信あり

開催趣旨

2019年から2024年にかけて札幌刑務支所で実施された「女子依存症回復支援プログラム」(通称：モデル事業)は、女子受刑者が抱える困難を解決し、社会復帰を支えることを目的に行われました。本プログラムでは、刑務所内の支援と社会の支援をつなぐ新たな取り組みがどのように実現されたのかが問われます。

本シンポジウムでは、事業を通じて得られた成果を振り返り、なお残る課題を浮き彫りにするとともに、彼女たちが抱える課題に社会全体がどう向き合い、共に生きる社会を構築していけるのかを考えます。

主催



NPO法人リカバリー

入場無料・事前申し込み

右のQRコードもしくは、下記URLからお申し込みください
定員になり次第、締め切らせて頂きます



<https://recovery0208.peatix.com/>

プログラム

① 主催者挨拶

第一部

② 女子依存症回復支援プログラムが問いかけたもの

大嶋 栄子 NPO法人リカバリー代表 **モデレーター**

後藤 弘子 千葉大学理事・副学長

上岡 陽江 ハームリダクション東京共同代表/NPO法人ダルク女性ハウス
プログラム修生(オンライン参加)

③ 休憩

第二部

④ 塀のなかと外をつなげる：課題と展望

熊谷 晋一郎 東京大学先端科学技術研究センター教授 **モデレーター**

信田 さよ子 原宿カウンセリングセンター顧問/日本公認心理師協会会長

坂上 香 ドキュメンタリー映画監督/NPO法人out of frame代表

古藤 吾郎 ハームリダクション東京共同代表 (オンライン参加)

大嶋 栄子 NPO法人リカバリー代表

⑤ 質疑応答

⑥ 閉会の挨拶

本シンポジウムは、「ソーシャルジャスティス基金」の助成を受け、薬物依存女性に対するスティグマの解消や、日本の薬物政策の見直しを目指すアドボカシー事業の一環として実施されます。